

現状	課題	学力向上にむけた改善策
<p>・平成30年度区学力テストより 第1学年はすべての教科において、目標値と全国平均を上回っている。各観点においても理科の「観察・実験の技能」を除いてすべて目標値を上回っている。 第2学年の国語・数学・英語において、目標値と全国平均を上回っている。その3教科の各観点においても、英語の「言語や文化についての知識理解」を除いてすべて目標値を上回っている。 第1学年の国語・数学において、すべての観点で目標値を超えている。 第3学年の数学・英語において、目標値と全国平均を上回っている。英語の観点においては、すべて目標値を上回っている。</p>	<p>・小学校までに獲得しなければならない学力が身に付いていないために、中学校の学習ができない生徒がいる。 ・学ぶ意欲や基礎学力が十分でない生徒、個別支援が必要な生徒がいる。 ・指導には素直に従うが、知識欲や好奇心に欠け、学習意欲に欠ける生徒がいる。 ・教員も保護者も家庭学習による学力定着に課題があると感じている。</p>	<p>家庭学習ノートを毎日提出させ学年の教員で点検し、提出状況が年間を通じてパーフェクトだった生徒を表彰する。理科においては、科学における最新のニュースや身近な情報を紹介し、ICTを活用した視覚に訴える授業や実験の学習を増やす。また、小テストを定期的実施して、学習内容を確認させる。eライブラリを活用し、宿題等を出し学力の定着を図る。区の学力調査をもとに各生徒に対してそれぞれ課題を提示する。英語においては、言語活動の場面を多く設定し、コミュニケーション能力の向上に努める。特に単語や文を正しく書くことの能力を向上させるために、表現(書くこと)を意識した授業の工夫が必要である。</p>

生活指導の指導の重点	学力向上にかかわる学校経営方針	道徳教育の指導の重点
<p>①生徒の自己実現と望ましい学級集団作り ②授業規律の確立した愛情ある厳しさ ③家庭・地域と連携した基本的生活習慣の向上 ④不登校解消を目指す教育相談活動及び外部機関との連携 ⑤「いじめ」及び非行を未然に防ぎゼロトランス ⑥問題行動の発生時には即時のチーム対応 ⑦教科指導と連携した非行防止学習 ⑧保護者と連携したSNS等への情報モラル指導 ⑨「安全教育プログラム」を活用した危険予知・回避指導 ⑩生徒自らが正しく考え行動できる判断力の育成</p>	<p>チーム堅中の創生 学校、生徒・保護者、地域をひとつのチームとして組織し、目標達成に向けてともに努力するチームを土台とする。 1 「学校は、夢をかなえるための道場」とし、夢の実現に向けて師弟同行をモットーとする。 2 個々の生徒・保護者への対応を、教師集団が一丸となって行う。 3 漢字・計算・スペリング・地理コンテストを実施し、基礎学力の定着を図る。 4 成績上位者と各種検定の成績優秀者を表彰し、切磋琢磨する雰囲気を作る。 5 キャリア教育を充実させ、自己の夢に向かい努力し、目標達成に向け取り組むチームを構成する。</p>	<p>①全教員協力による道徳教育の推進 ②教師と生徒がともに考え、共感できる指導の実践 ③命に関わる学習の積極的な推進 ④他者へのいたわりの心の育成 ⑤保護者や地域への啓発及び小学校との連続性の重視 ⑥学校生活全体の中から、心に響く教材開発の推進 ⑦あらゆる機会を通じた、道徳的な心情の育成</p>
進路指導の指導の重点	機能する PDCA cycle	特別活動の指導の重点
<p>①自己理解を深め、自らの長所を生かす態度の育成 ②キャリア教育を充実させ、自ら主体的に進路を選択できる能力の育成 ③生き方学習を充実させ、望ましい勤労観・職業観の育成 ④企業や上級学校と連携した啓発的な学習体験の実施 ⑤職業体験の効果的な実施 ⑥発達段階に応じたキャリア指導の実践 ⑦個に応じた資料・情報の収集及び提供・活用の促進 ⑧地域人材を活用した、パワーアップ面接練習会の実施</p>	<p>PLAN DO CHECK ACTION CONFIRM</p>	<p>①自主的で望ましい集団活動の実現 ②生徒が主体的・意欲的に活動する学校行事 ③生徒自身の手で『いじめ』のない学校づくりの推進 ④情報モラル教育の徹底 ⑤保護者や地域と連携した「ボランティア活動」の実施 ⑥外部講師による学習や体験的な学習の推進 ⑦生徒一人一人の個性が集団の中で生かせる取組の工夫 ⑧食に関する指導の目標、及び食物アレルギー対応を含めた全体計画等に基づき、食育の実践</p>
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	家庭との連携を図った学習習慣の確立	総合的な学習の時間の指導の重点
<p>【国語】聞く姿勢、反応共に良好で、発言力のある生徒も複数いる。話し合いの態度も良いが、発表などは慎重すぎて積極性に欠ける。活発に発言する一方で、話が頭に入っていない傾向にある。諸活動で取り組みに個人差が大きいのに見える。1、2学年は「漢字を書く」が全国平均を上回っているが、3学年は「漢字を書く」に課題がある。 【社会】どの学年も意欲的に授業に取り組んでいる。記述の問題に対する無答も少ない。発言や話し合い活動は全体的に活発であるが、既習知識の抜けが多く、復習内容との関連が見つけ出せないことが多い。中学生までの経験から、既知に知って欲しいところが考える社会的事象に対する基本的な知識が乏しい生徒が多い。 【数学】数学の得意な生徒が苦手な生徒に教えるといった学びあい活動を行っている。問題に対して真剣に取り組む、先生の解説が始まる際には静まるといった授業規律が保たれている。第1学年は平面図形、第2学年は近似値、第3学年は資料の活用が課題のある領域である。 【理科】どのクラスも積極的に発言し、話し合いの活動も活発である。一つ一つの質問によく考える癖がついている。実験結果を考察するときも、各自の言葉でまとめることができる。しかし、理科に対して理解を示し、興味のある生徒と関心のない生徒の差が大きい。系統だった活動が苦手である。第1学年は観察実験の技能、第2、3学年は粒子の領域が課題である。 【英語】発言やペアワーク等は積極的に行っている反面、活動を通して学んだ文法事項などの定着率は低い。また、英作文を書くことは出来ても、似たような文が続く、また文法ミスが多く見られる。英問英答に対する経験が少なく、代名詞に直したり、動詞も時制を合わせたりすることが苦手である。 【音楽】歌唱の授業の際、楽譜を目で追わず、歌詞の文字のページだけを見て、楽譜を見ようしない生徒が多い。音楽記号にも苦手意識がある。また、鑑賞の授業では、思ったことを言葉で表現することに苦手意識を感じている。日本歌曲などは、歌詞から情景を想像することが難しいようである。写真などを見せると、なかなか伝わらない。パート練習など教え合いの練習を充実させたい。 【美術】絵画表現において、筆や絵の具の扱い方、塗る順序や塗り方の技能が未熟な生徒がいる。技術面と理解力に二極化が見られ、個別指導が必要な生徒がいる。独創的な制作のアイデアや発想の工夫を深めることが苦手である。制作の進捗状況に差があり、作業の早い生徒はある程度の完成度で満足してしまうことが多い。 【技術・家庭科】実習にはどのクラスも積極的であり、小テストや製図テストを課したこともあり、一定以上の定着が見られる。製図の授業では、進度に差があったため、終了した生徒が終わってない生徒へ教えるという取り組みもした。外国籍の生徒や板書を写すことが苦手な生徒も一定数おり、知識の習得に努力を要する生徒もいる。コンピュータ実習についてはよく頑張っている様子であった。家庭で学習してきたかどうかで、テストの出来に大きな差が見られた。しかし全体的に、コンピュータを使用した実習においてはほとんどの生徒がおおむね満足できる到達状況であった。 【保健体育】スポーツに関する知識が乏しい生徒が数人いる。技能面は差がとても激しい。水泳では25m泳げない生徒もいれば個人メドレーできる生徒もいる。知識はあるが、それを自分の動作に活用できない生徒が多い。技能が低い生徒は、できない原因を考えると苦手である。第3学年は第1・2年生で学んだ基本的な運動知識・技能はおおむね身に付いている、運動知識は、全体的に高い。</p>	<p>【国語】漢字、文法を中心によくやっている。暗誦も全員取り組むことができ、復習の様子があがえる。家庭学習はよくやっているが、定着にいたる内容になっていない面もある。作文や漢字などの宿題は一部の生徒が取り組めていない。宿題を提出するが、こなすことに満足感を抱いてしまい、定着に至らないと考えられる。 【社会】家庭学習帳の提出はほぼ100%であるが、個々によって質に差はある。第2学年は授業内容のまとめとして授業のポイントを記述させる宿題を多く出しており、おおむね提出している。D E層の生徒の家庭学習の質は依然低い。 【数学】毎回の授業内容の復習を宿題にしている。8割の生徒は取り組んでいる。ワークなどの提出は9割の生徒ができていて、期限を守れない一部の生徒や提出日ギリギリの生徒は解答を写すだけの者もいる。小テスト(宿題内容)を実施し、基礎学力の定着・把握を行っている。 【理科】実験のワークシートや観察スケッチなど、どの生徒もきちんと提出できる。問題集などの課題には回答集がないと自主学習ができない生徒もいる。宿題の提出状況は良いが、自ら調べて解答を導いたりすることが苦手。わからない問題をそのままにする生徒が一部いる。 【英語】ワークブックの提出率は高いが、答えを丸写ししているだけの生徒も散見される。また、復習ノートの提出を任意で行っており、約6割の生徒が提出しているが、書くことで満足してしまっているケースも多い。授業の予習と復習の中で、自分で調べたり、考えたり学習する定着がない。 【音楽】非常に意欲的で、どの生徒も一生懸命授業に取り組んでいる。どんな分野にも興味を示し、鑑賞の授業、歌唱の授業ともに積極的に取り組んでいる。 【美術】緊張感をもって、課題に対して前向きに取り組むことのできる生徒が多い。時間の厳守、話を聞く姿勢、後片付け等の授業規律を意識して取り組むことができる。長期的な作業になると集中力を保つことが困難な生徒、完成度や丁寧さにやや欠ける生徒がいる。鑑賞などの場面では、素直に感じることのできる生徒が多い。 【技術・家庭科】授業にはどのクラスも真面目に参加しようとする。またワークの提出率は授業中に提出する場合はとても高いが、宿題として持ち帰らせたり、再提出となると提出率が悪くなる。家庭での学習習慣を身に付けさせる必要がある。実習には非常に積極的である。小テストに関しては、予習を行ってきた生徒と、行ってきていない生徒で、出来に大きな差があった。意欲的に取り組む生徒が多い。発言に関しては積極的に発言する生徒がある程度いる。 【保健体育】できないことや苦手なことも「まずは取り組もう」という姿勢が大切と伝えていることもあり、積極的に授業に参加している。準備体操から体育係を中心に声を出して、「みんなが楽しい」と思える雰囲気を生徒たちからつくりだしている。前向きに取り組んでいるが、考えて運動することが苦手な生徒が多い。</p>	<p>【改善策】 【国語】日頃の授業から、聞くことが理解のきっかけとなるような発問をしたり、聞き取る学習を増やす。また、的確に意見を話せるような指摘、アドバイスを随時行う。漢字の書き取りテストおよび解説を月1回必ず行う。聞き取り学習を定期的に取り入れる。夏休みの課題として、入試によく出る小学校までの訓読みの漢字書き(105文字)を出す。文学作品の「表現」や「場面の展開」に興味関心をもちさせる授業展開をする。 【社会】現状多くの生徒がもっている社会に関する関心を損なうことなく、授業を展開していく。副教材のワーク・振り返りシートから週に1・2回程度宿題を出し、家庭学習を習慣づけていく。前時の復習や単元ごとのまとめの時間をもちと多く設定し、達成感のある授業を展開していく。今学習している社会の学習が、日常生活に繋がっているという感覚をもたせる授業を展開していく。 【数学】第1学年は小数・分数の計算と図形に関する単元に課題がある。11月頃から入る図形領域に向けて、夏休み明け以降から小学校での図形の復習を行い、中学校の図形に繋げていく。計算に課題のある生徒には、6月から週に3回程度放課後に補習を行っている。9月以降も継続していく。毎週振り返りシートを家庭学習で取り組ませ、基礎の定着を図る。全学年で毎時の授業内容をもう一度ノートにまとめさせるという宿題を出し、生徒の基礎学力の向上を図る。長期休業中の課題にも振り返りシートを活用し家庭学習の定着を図る。 【理科】各単元の終了ごとに、振り返りシートや演習プリントを行い、定着を図る。化学変化の実験を行いながら、原子という粒子の概念を持たせる工夫をする。グラフ読み取り、グラフの使い方や読み取り方を細かく指導する。さらに演習問題を作成し、読み取りの難しい生徒については時間をかけ放課後等に個別で指導していく。1、2年生で出てきた重要用語について復習し、小テストを年度末に実施。基準点に達しない場合は、復習プリントを用意し、繰り返し小テストを行う。「運動とエネルギー」の単元では、実験を6回行い、自分で予想し考えを深められるような授業を展開する。それに合わせ、理解の確認をするため、演習問題を3回以上実施する。eライブラリを宿題として活用し家庭学習の充実を図る。 【英語】宿題をベースとした文法テスト(並び替え・穴埋め)を実施する。週一回のペースで単語や文法を問う小テストを実施する。単元ごとに単元のテーマないし文法に則した、5文以上の英作文を書かせる。夏休みの宿題の絵日記(過去形を使用した英作文)を清書し、英作文の書き方・構成を覚えさせる。連語の小テストを実施し、一度確認した上で小テストの内容を踏まえた50題の大テストを実施。同じことを何度も繰り返すことで語彙を定着させる。長期休業中の課題にも振り返りシートを活用し家庭学習の定着を図る。 【音楽】自分のパートの楽譜を認識し、歌唱できるようにする。授業で確認し、一人ずつミニテストを行う。定着するまで、何度も繰り返しミニテストを行う。鑑賞の授業では、歌詞の例を挙げ、それを使用しながら言葉で表現できるように導く。模範解答や、よく書けている生徒の例を提示し、書き方をイメージさせる。授業の初めなどにフラッシュカードで、音楽記号の反復練習を行う。 【美術】絵文字・人物画・切り絵は文化祭(10月末)までに完成させる。進捗の遅い生徒への手立てとして、放課後に補充を行う。鑑賞の授業の時間を定期考査前に2〜3時間程度確保する。毎時間、優れた参考作品や生徒作品を掲示することで、興味関心や全体の完成度を高めていく。 【技術・家庭科】知識が定着できていない部分があるため、既習事項の復習テストを行う。また、製作実習が終わった後も振り返りを行う機会をつくり、製作工程で必要な知識を問う小テストを行う。ICT機器を活用して、その授業ごとの製作工程を明確に生徒に示す。毎回の授業の狙い、要点を明確に授業の最初に示す。実習では班活動を多く取り入れ、リーダー育成にも取り組む。評価をフィードバックし、生徒の自信につなげる。 【保健体育】毎時間、授業の始めに「本時の目標」を定め、授業の終わりに「本時の振り返り」を行う。単元が切り替わった最初の授業は、基礎運動と安全管理に関するルールを徹底させる。教師の説明の時間、準備等の運動の時間をなるべく短くして、運動実施時間25分以上行う。ICTを活用して、自分自身の動きを分析させて課題を明確にさせる。自らの課題を考えさせるため、毎単元で学習カードを記入させる。卒業後もスポーツに親しみをもちるように、スポーツが心身にもたらす好影響を理解させる。ペア学習(アクティビティ)を行い、生徒同士でアドバイスする機会を設けて相互理解を深めさせる。</p>